



日本の
ひなた
宮崎県

みやざき女性の活躍推進会議 講演会

平成27年2月8日

会場：宮崎市民文化ホール

代表あいさつ

昨年の10月19日、みやざき女性の活躍推進会議が、多くの企業の皆様、そして、支援団体の皆様のご協力をいただいてスタートをしましたが、今回が初めての活動として、講演会を開催させていただきます。

私たちが目指しているテーマは、女性も男性もいきいきと働き、ともに活躍する活力ある宮崎を目指すというものです。私たちが一番頑張りたいと思っていることが、女性が働く中で、妊娠、出産、介護などの理由により離職をしなくて働き続けられる環境をつくらうということです。

そして、もう一つは、女性の能力開発です。管理職への登用、その能力が十分に発揮できる環境づくりを目指しています。

本日、ご講演いただく万協製薬株式会社の松浦社長の具体的な取組が女性活躍推進に向けて、大いに役に立つことを祈念いたしまして、代表のあいさつとさせていただきます。



KIGURUMI.BIZ 株式会社
取締役工場長
加納 ひろみ氏

講演会

演題

女性も男性もいきいきと働く ことができる会社を実現するための方法

講師

万協製薬株式会社 代表取締役社長

松浦信男氏

昭和37年兵庫県神戸市に生まれ徳島文理大学薬学部、三重大学医学部大学院博士課程卒業。昭和57年万協製薬株式会社入社・平成7年に阪神・淡路大震災被災・東洋漢方製薬株式会社の代表取締役就任。平成8年万協製薬株式会社代表取締役就任。平成24年第9回日本パートナーシップ大賞グランプリ受賞。平成26年内閣総理大臣表彰【子育て・家族支援部門】「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」「イクボスさん、いらっしやい!部門受賞。



私の会社は、基本的に男性も女性も、年齢も、性別も、学歴も、関係なく個性を重視する会社をしています。つまり、男性も女性も、年齢も関係なく、個性を發揮したときに、その人の人生は輝くでしょうし、そういう人たちがたくさんいる会社は發展すると思います。

そのような会社に皆さんの会社も変わりませんかという提案です。もちろん、中小企業にとって、女性や中高年の方、いろいろな人の力を借りないと、運営が厳しいという状況はありますが、単なる数合わせのために人を集めるのではなく、自分たちがやりたい夢のためにチームで頑張り合える、そのような組織を皆さんが作れたときに、社会から必要とされるような会社になるのではないかと、今日の私の話のポイントです。

会社にとって、「お客さん」、「従業員」、「会社」の3つが構成要因となります。お客さんが喜び、会社の利益が上がり、従業員も満足できる。この実現はなかなか難しいことかもしれません。しかし、みんなが一生懸命、幸せになりたい、三方良しになりたいと思っている力が社会を変えていきます。この三方良しの矢印が会社の内にも外にも見える会社が、21世紀生き残ると思っています。僕の言っていることは理想論だと思うかもしれませんが、私は、ずっとそのようにやってきました。

自分の会社や組織の中で問題を発見し、自分達が行動してその問題を変えられる仕組みを皆さんの中から見つけていただきたいと思いますし、それには会社にいる女性の力をもっともっと活かすべきだと思います。社長の仕事は、会社を元気にすることですが、社長を元気にするために会社を使っているような人がいませんか。あるべき形は、ピラミッド型から逆ピラミッド型への組織の変身です。一番上にお客さんがありますが、社長はそんなにお客さんと話してないと思います。

このピラミッドを逆さにして、社長は下からお客さんと社員を支えるような形になるべきだと思います。本来、組織の上流にいる社長である自分が最下流にあると認識することが、21世紀型リーダーであると思います。

私は自分の会社の組織を変えて、私の考え方を社員にどんどん教えることによって、社員が自分で考えて決断できるような組織にしました。今日、私がここへ講演に来ることができているのも、社員が私の代わりに一生懸命考えて仕事をしてくれるようになってきているからです。

あと一つ言いたいことは、僕が最近言っている伴走型リーダーシップということです。逆ピラミッド型の構造の理由が分かっていたら、次はマラソン大会をイメージしてください。皆さんがコーチだとして、一番トップのランナーを目指して走っていくわけです。だから、伴走して励ましていくことにより、一人でも多くの従業員が勤め続けるような仕組みを考えて取り組みました。休日出勤も残業も、できるだけ減らしてあげてみてはいかがですか。社長が新入社員のとくと、今の若者とは、当たり前が違ってきているわけだから、それに合わせて考えなければいけないという意味で、伴走型リーダーシップを考えていただきたいと思います。